



ながどろひろば

6月から休館日が
水曜日になりました。

今年4月にオープンした環境省の広報施設「花の里ながどろ 環境再生情報ひろば(愛称・ながどろひろば)」。環境省が長泥地区で実施している環境再生事業や身の回りの放射線に関する情報をさまざまな展示で伝えています。施設の開館時間は午前10時から午後4時で、休館日は水曜日と年末年始、入館は無料です。隣接するビニールハウスで花き栽培の様子も見学できます。



押し花のカードをつくるワークショップも体験できます。



長泥地区以外の村民の皆さんにも来ていただいています。花き栽培も含め7人の職員がローターイオンで常駐しています。



ながどろひろば
運営管理業者 NTCインターナショナル株式会社
堀 親和さん

自宅を直して避難先と行ったり来たり。長泥に泊まつてさびしくないかと言われますが、暮らしていた所ですからさびしくないです。長泥は避難中からみんな通つて草刈りをしていましたよ。長泥は避難区域なのにどうしてこんなにきれいなの」とよく聞かれたものです。これからも木や花を植えて多くの人へ来てもらえるようになりますね。長泥で農業をやってみたいという人がいればいくらでも応援しますよ。かつての黄金色の水田風景を見てみたいですね。

避難先でも花卉を栽培。復興事業にも協力を続けています。

鳴原清三さん(長泥)

庄司さんの田植えに集まり、記念の手植えや獣害対策の柵づくりに協力していた皆さんに、お話を聞いてみました。



避難中も夫婦で通つてずっと庭の手入れをしていました。「長泥曲田公園」に自宅の土地を提供することは苦渋の決断でしたが、地区を何とかしなければという思いでした。青い屋根の小さなサイロは実際に使っていました。避難指示が解除されながら、アヤメを植えたり花壇をつくったりしましたが、残念ながらイノシシにやられてしまいました。それでも今も夫婦で通つて、草刈りをしていますよ。

杉下定男さん(長泥)



地区的前進を願い長泥曲田公園に自宅の土地を提供。

長泥が好きで、とにかく一生懸命やりました。長泥のことはみんなで決めたいと思って集まりもしましたね。今は母屋のあつた所に井戸付きの小さなプレハブハウスを建てて、時々寝泊まりしています。老人会の名前を「友の会」として、友達感覚で60歳以下も一緒に活動できるようにしたいと考えています。震災以後につながりができた人達は、「酔い友会(良友さん)の名前にちなんで」でやつてきます。近々、長泥でバーベキューをする予定です。

震災前から令和2年まで行政区長を務めました。

鳴原良友さん(長泥)



イイタテバイオテック株式会社

令和7年3月31日に用地の避難指示が解除され、長泥曲田地区の工場が本格稼働しています。

工場では、県内の汚泥を原料に、熱風で乾燥して堆肥原料を製造しています。また、燃料の一部に、近隣農地で栽培する資源作物ソルガムを使用し、農地の活用にも貢献します。

村内居住の方や避難先から通う方を含め、現在10人が雇用されています。